

人間総合科学学術院

専攻名	課程	アドミッションポリシー	
国際連携食料健康科学専攻	修士課程	求める人材	<p>医科学又は生物資源科学の素養と協働の精神を持ち、健康と食料に関する地球規模の課題に対して国境も学問領域も超えて積極的に取り組み、人類・社会の未来構想に貢献するためのイノベーションを生み出そうとする強い意志を持つ学生を求める。</p>
		入学者選抜方針	<p>出願書類の受付は各大学で行う。受付に際しては、志願者が出願資格を満たしていることを3大学で相互に確認する。第1次選考として、出願受付を行った大学において書類審査とグループ討論を、第2次選考として3大学の教員による面接試験を行い、それらの結果を3大学合同で総合的に評価して可否を判定する。出願書類の作成、グループ討論、面接はいずれも英語により行う。第1次選考及び第2次選考の内容及び実施方法は次のとおり。</p> <p><第1次選考></p> <p>出願受付を行った大学において、出願書類に基づき書類審査を行い、その後グループ討論を実施する。なお、第一次選考については、3大学共通に定めるもののほか、第1次選考を行う大学の判断により、予備面接等の必要な選考を行うことができるものとする。</p> <p>書類審査は、志望動機、研究計画書、出身大学(学士課程)の成績・卒業証明書、推薦書、英語能力を証明する書類等とする。これらの書類により、受験者の学士課程における学修の内容・成果、本専攻での学修の目的・計画、修了後のキャリアプラン、英語能力等を確認し、受験者の「食と健康」に関するバックグラウンド、「食と健康」に関する地球規模課題の解決への意志、国際性と学際性への適性等を評価する。評価項目は、志望動機、研究計画、学修計画、キャリアプラン、文章力とし、複数の審査員が採点する。英語能力については、TOEFL-iBT: 61 以上、TOEIC: 600 以上、IELTS: 5.0 以上を出願要件とする。</p> <p>グループ討論は、「食と健康」に関する地球規模課題をテーマとして行う。グループ討論の開始前に話題を提供し、数名の受験生と1名の教員がグループを作って、その解決策について議論する。これにより、受験者の持つ医科学又は生物資源科学のバックグラウンドの課題への活用能力、共同で物事を進めるコミュニケーション能力等を評価する。評価項目は、「食と健康」に関する地球規模課題の理解度、発言力、他者への傾聴、発言の首尾一貫性、討論への貢献度合とし、複数の審査員が採点する。</p> <p>受験者の「食と健康」に関する学問的素養については、学士課程における履修科目とその成績、研究計画書、グループ討論の内容から医科学や生物資源科学の分野において基礎的な素養を有することを評価する。</p> <p><第2次選考></p> <p>3大学の教員による面接試験を行う。面接試験は出願受付を行った大学で開催し、他2大学はテレビ会議システム等により参画する。面接試験では、本専攻での学修の目的・計画、「食と健康」に関する基礎知識、修了後のキャリアプラン、課外活動・社会活動の経験等に関する質疑応答により、</p>

			<p>本専攻への適合性を評価する。評価項目は、志望動機、研究・学修計画、キャリアプラン、プレゼンテーション、質疑応答とし、複数の審査員が採点する。</p> <p>最後に、書類審査、グループ討論、面接試験の結果を 3 大学合同で総合的に評価して合否を判定する。</p> <p>以上の選考を通じて、「食と健康」に関する学問的素養と協働性・学際性・国際性をもって課題解決に向かう強い意志を備えた、本専攻の人材養成目的及び教育課程に相応しい入学者を確保する。</p>
--	--	--	---